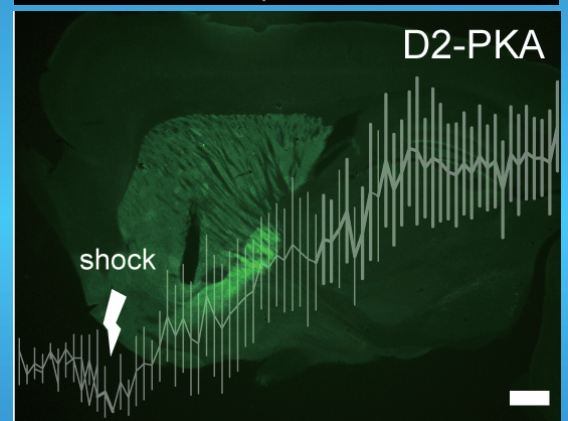
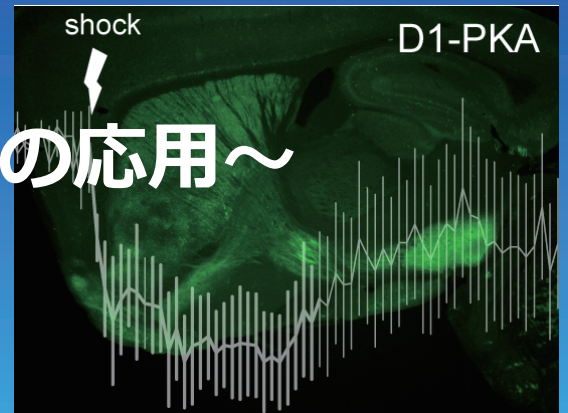


情動・本能行動を動かす脳機構を探る

来聴自由
申込不要

～行動と神経活動の関連を
解き明かす新規光技術法の応用～



図は Yamaguchi et al. (2005) より引用し、一部改変。

山口 隆司 博士

ニューヨーク大学医学部 神経科学部門
ポストドクトラルフェロー

2017年

5月19日(金)

17:00 ~ 18:00

場所: 人間科学研究科ラーニング・コモンズ(北館2階)
(セミナー終了後、別の場所にて懇親会を行います)

演者からのメッセージ:

恐怖や喜びなどの情動は、攻撃・逃避行動や性行動などの本能行動を行うように動物やヒトを動機づける。古典的手法(電気刺激や薬物注入など)を用いた研究から、情動・本能行動の発現に必要な脳内の主要部位は明らかとなってきた。しかしながら、実際の行動発現に関して脳内神経回路がどのように活動しているのかについては、技術的制約のため不明な点が多い。そこで、演者は、遺伝子工学的手法と顕微内視鏡技術を組み合わせた新手法を利用して、大脳基底核回路における、回避記憶の形成および発現時の神経活動の観測に成功したので、その結果の一部(Yamaguchi et al., PNAS 2015)を示したい。現在は、雄の性行動に関わる神経回路活動をリアルタイムに観測するために、新規光技術法を用いた研究を推進しているので、本能行動を司る神経回路基盤についても議論したい。